中国粗鋼6565万トンに増

4月 過去2番目の高水準

【上海支局】中国国家統計局によると、4月の粗鋼生産量は6565万㌧と、前年同月比6・8％増加した。日当たり218万8000㌧で、いずれも過去2番目の水準。春需を見込んだ鉄鋼メーカーが生産を増やした。実需が伸び悩み、鋼材市況が低下しているため、メーカーは採算が悪化しているものの、増産による増収とコスト低減効果を求め、なお高生産を続ける見通し。鋼材輸出の増加につながっており、海外市場への影響度もましそうだ。

前月比では1・0％増え、2カ月ぶりに減少したが、前月は過去最高だった。日当たりは2・3％増え、4カ月連続で200万㌧を超えた。1―4月累計は2億5815万㌧と、前年同期比8・4％増加した。

自動車生産は堅調だが、建設機械や造船など他の需要分野は低調。エコ家電補助金の駆け込み需要で、エアコン販売が増えていると言われるが、政府の不動産投資抑制から家電製品の販売は低調。中国鋼鉄工業協会（CISA）によると、4月19日時点の鋼材市中在庫（主要26都市・5品目）は2084万㌧と前年4月末比24・2％増加。「宝山鋼鉄に、製品在庫が多く積み上がっている」（日系高炉幹部）など、メーカー在庫も増えている。

4月の鋼材輸出は555万㌧と、前年同月比9カ月連続増え、海外市場の需給を緩めている。メーカーの増産傾向は、昨年秋ほどに鋼材価格が下落し、赤字が広がるまで続く見方もあり当面、日産200万㌧以上が保たれ、鋼材市況を下押す構図が続きそうだ。

さらに南港エリアでは港湾荷役などを行う大都（本社＝大阪市、間口豪社長）が所有する最大吊り荷重80㌧、最大作業半径48㍍の特殊作業船「ネプチューンZ」が控えており、建設。トラックスケールや油水分離槽も新設した。

ボンデ鋼板・亜鉛鉄板
西山鋼業株式会社
本社／東京都荒川区荒川5-18-4
☎(03)3892−1111(代表)
営業所／横浜 工場／浦安・鷲宮・横浜・福島
出張所／足立・取手 配送所／足立・鶴見

扶和メタル

南港の全面改修完了

工業雑品スクラップ 扱い月4000㌧目指す

本稼働を開始した南港支店

扶和メタル（本社＝大阪市、黒川友二社長）が、南港支店で進めていた全面改修工事が完了し、このほど本稼働を開始した。南港支店は昨年9月、大阪市住之江区の南港ヤード2カ所を集約・統合して開設。集荷ヤードから支店化したことや、全面改修などに伴って営業強化を図り、工業雑品スクラップに特化した専用ヤードとして、月間4000㌧の取り扱いを目指す。

これまで、南港地区の集荷・出荷拠点について、大銑産業・南港倉庫内と南港G―8埠頭の2カ所で営業していたが、合理化へ向けてヤードを南港G―8埠頭に集約。さらに支店として展開することで「統合による業務の効率化だけではなく、営業力を強化する」（黒川社長）という。

敷地面積は約2300平方㍍で、主要設備は大型重機3基と50㌧トラックスケールなど。営業エリアは大阪を中心に関西一円に広がっており、船積み可能な専用岸壁を備え、工業雑品スクラップの集荷と輸出業務を中心に展開する。

支店化にあたり、これまで集荷ヤードだった南港支店では、事務所棟の全面改修を行ったほか、在庫能力と安全面の確保へ向けて、高さ10㍍の工場擁壁を建設。トラックスケールや油水分離槽も新設した。

さらに南港エリアでは港湾荷役などを行う大都（本社＝大阪市、間口豪社長）が所有する最大吊り荷重80㌧、最大作業半径48㍍の特殊作業船「ネプチューンZ」が控えており、「支店化で数量拡大を図り、毎週1船の輸出を行いたい」としている。

JFE建材

3期連続で経常減益

前3月期、土木振るわず

JFE建材の2013年3月期連結業績は、売上高が前期比3・9％減、営業利益が5・1％減、経常利益が5・5％減の減収減益だった。ただ、純利益は14・7％増で、3期ぶりに増加に転じた。建築需要が大都市圏で回復したことで、デッキプレートを中心とした建築用建材商品が増収増益となったものの、道路関連の大型物件が端境期ということもあって、土木用建材商品や地下土木商品が落ち込みを余儀なくされた。グループ会社も7社のうち6社が黒字となったものの、JFE建材フェンスなどが販売競争の激化により減益となり、連結業績でも経常利益ベースで3期連続の減益となった。

単独業績は回復基調にあるデッキプレートで収益重視の選択受注を進めたことなどが奏功し、売上高こそ前期比2・2％減の386億8700万円と落ち込んだが、営業利益は1・3％増の18億9400万円、経常利益が10・4％増の21億7300万円、純利益が19・2％増の10億7300万円で、3期ぶりの増益だった。

部門別売上高は建築用建材商品が9・2％増の135億6100万円、土木用建材商品が5・3％減の162億2900万円、地下土木商品が11・2％減の88億9600万円。

14年3月期については、補正予算やアベノミクスでの公共工事効果、原燃料価格の上昇に伴う母材価格の上昇と、その転嫁など不透明要素が多いものの、「前期以上の水準」（大出直文社長）を目指す方針。

定時総会

新会長に鈴木氏

東京鋼板シヤー組合

東京鋼板シヤー組合は15日、定時総会を開催し、新会長に鈴木正通氏（鈴木鋼材社長）を選任した。遠藤重康会長（和信産業社長）は相談役に就き、藤澤鐵雄相談役（藤澤鋼板社長）は退任。新たに保坂英司氏（保坂鋼材社長）が監事に就任した。

鈴木新会長は「親睦第一の精神を継承し、若手の皆さんとの交流も一層深めて、次への世代への橋渡しができればと思っている」と抱負を語った。

遠藤前会長は「総会の書面決議や焼肉店での食べ放題での暑気払い、会員の改訂など、自由にやらせていただいた。鈴木新会長は声が大きく、にこやかで、行動力もあるので、みんなで盛り立てていってもらいたい」と謝辞を述べた。

乾杯の音頭をとった藤澤前相談役は「アットホームですてきな会で、この先も継続していただければ、ますます発展していくだろう」と話した。

会員数は月星金属加工が退会し、34社となった。本年度の事業計画では、6月15日に鋼板昭和会ゴルフコンペをはじめ、暑気払いや新年初顔合わせ会などを開催することが決定している。

新会長に宇佐美氏 J―CLUB

東京鋼板シヤー組合の若手組織である鋼板J―CLUBは1日、定時総会を開き、新会長に宇佐美貴史氏（東京鉄製専務）を選任した。金子泰介会長（清宮製作所専務）は副会長に就いた。

産業新聞
http://www.japanmetal.com
購読の申し込み
0120-300391
http://www.japanmetal.com/koudoku.html.html

全日板連協板

北海道で全国大会

「自信と誇りを持とう」

【旭川】全日本板金工業組合連合会（理事長＝石本惣治・ライムイシモト会長）、日本建築板金協会（会長＝同）は16日、北海道旭川市で「第65回全国建築板金業者北海道大会」を開催した。

石本理事長は「政権交代から半年で、株価の高騰、円安など景気が良くなった気配があるが、われわれはまだその実感がない。昔の公共工事はゼネコンのためのものだったが、今の公共工事は職人などの専門業者に光が当たるものになっている。自信と誇りを持って、技術を若い人に継承してもらいたい。鉄板はリサイクルができて環境にやさしいものなので、誇りを持ってほしい」とあいさつした。

続いて、建築板金業振興議員連盟会長で衆議院議員の石破茂氏、高橋はるみ・北海道知事、西川政人・旭川市長が来賓としてあいさつした。

テープカットする石本理事長（中央）

組合賦課金 6割減額継続

愛知鉄構協

【名古屋】愛知県鉄構工業協同組合は16日、名古屋市内のホテルに80余人が出席し、第39回通常総会を開催した。組合賦課金を前年度に引き続き正規の6割に減額し、組合員の負担軽減を図ることなどを承認した。

石原義幸理事長は、「モノづくりの永遠の課題は、品質確保の製品づくりであり、その基盤は経営の安定にある。そのための取り組みには、全国組織でしかできないことなどさまざまあるが、その中でも本年度は、組合員の団結でしかできない事業に焦点を絞って実行し、経営安定のためのさらなる一歩としていく」とあいさつした。

石原理事長

日刊産業新聞ネット版
http://www.japanmetal.com

新日鉄住金・藤原常務

J―サミットで講演

講演する藤原常務

新日鉄住金の藤原真一常務執行役員は16日、J―サミットで講演し、モザンビークでの原料炭開発の必要性について強調した。新興国の成長に伴い、原料炭の獲得競争が始まるなか、特に優良な強粘結炭の新たなソース確保が課題と指摘。先月採掘権を取得したレブボー炭鉱を、近く固まる見込みの新たな合弁事業パートナーとともに早期に開発し、2016年の生産開始を目指す考えを示した。

原料炭

レブボー開発に意欲

次世代ソース モザンビーク重視

新日鉄住金の資源戦略について藤原常務執行役員は、技術力で原料コストを削減している状況を説明。高価な強粘結の使用を減らし、微粉炭吹き込み（PCI）用炭、非微粘結炭の比率を増やすとともに、鉄鉄生産に必要なコークスの原単位を引き下げており、合併後はさらに配合構成を改善していると述べた。また、長期安定確保のために供給者とも関係を強化し、安定調達に努めていると説明した。

藤原常務執行役員は、足元は世界的に景気の減速感が広がっているが、長期的には鉄鋼需要拡大が続くと見ており、東南アジア、アフリカの経済開発が成長の原動力になると指摘。鉄鋼業は世界的に低収益に苦しんでいるが、新日鉄住金は3年間で2000億円の開始3年後の年産500万㌧のフル生産体制移行時に、グループで33％の出資見合いで引き取ることで、現状20％程度の新日鉄住金の自前の原料炭調達比率は7㌽程度上昇する。

藤原常務執行役員は強粘炭の次世代のソースには、モンゴルのタバントルゴイ、ロシアのエリガの巨大炭鉱にも期待があるが、新日鉄住金としてはモザンビークを重視する考えを示した。

レブボー開発にあたっては、モザンビーク政府に対して、必要なインフラ整備を時宜を得た形で支援するほか、外資企業に対して公正でオープンな扱いを求めた。日本政府に（略）

新日鉄住金の藤原常務執行役員は、レブボー炭鉱の開発について「相手国政府の人材育成など従来の支援に加えて、インフラ整備などへの公的金融支援も期待を表明。モザンビーク政府、日本政府と三位一体で開発を成功させたい」と述べた。

藤原常務執行役員は「豪州にほぼ匹敵する品位に加えて、港まで900㌔㍍と、3000㌔㍍以上の輸送が必要なロシア、モンゴルの炭鉱と比べて輸送距離が短い点を挙げた。理由として

展示ブース出展

新日鉄住金、商社など

新日鉄住金のブース

J―サミットの展示会場では、新日鉄住金をはじめ、商社や海外の資源大手などが展示ブースを展開した。会場中央にひときわ大きなスペースを構えた新日鉄住金は、鉄道レールと車輪など資源開発やインフラ整備に貢献する製品を展示した。日鉄住金建材のノンフレーム工法など、グループ会社の関連製品も展示し、アフリカの資源開発に役立つ素材やソリューションをアピールした。

伊藤忠商事は南アフリカで開発を目指す白金族事業のプラットリーフを主体に展示した。三菱商事はモザンビークのアルミ精錬、三井物産はモザンビークでの天然ガス事業を主体に、アフリカでの取り組みを展示。トヨタ自動車、日産自動車など日本企業のほか、英リオ・ティントや伯ヴァーレなど資源大手も展示に加わった。

争力を強化する取り組みを説明した。

楽しく親睦深める

東京鋼板シヤー組合
鈴木 正通氏

「当会は一般的な地区団体と異なり、同じ品種を扱う同業者の集まりなので、一番の目的は『親睦』を深めること。諸先輩方からもそう伝え聞いている。その流れをしっかりと継承し、楽しくて、ためになる会にしていきたい」。今まで以上に盛り上げてくれると、遠藤重康前会長もその手腕に期待を託す。

同会は東京鉄鋼販売業連合会傘下の団体で、1955年発足。もともとはシャーリング業者が集まって結成した会であり、一時には商売敵ともなり得る相手同士だからこそ、商売以外では仲良くし、気持ちよく仕事をしようという設立趣旨に基づき、会員間の交流に重点を置く。焼肉の有名店でざっくばらんに語り合う暑気払いや、家族ぐるみで参加できるイベントなどもその一環だ。

鈴木鋼材（東京都八王子市）が加入したのは00年と、加入歴は比較的浅いが、それ以前に全鉄連・流通情報網研究会（DDN）の旗揚げ時から、中心メンバーとして活躍していたこともあり、その周囲を引きつける快活なキャラクターは誰もが知るところ。だが、仕事に話が及ぶと「モノづくりの基礎材料である鉄鋼に関わる世界に身を置き、それが社会に役立っていると実感できることに喜びを感じる」と熱く語るなど、まじめな一面も見せる。

「仕事は『ハート』でするもの。だからこそ、楽しくないと身が入らない。まずは会員が身を乗り出して参加したくなるような企画を考えていきたい。若手組織の鋼板J―CLUBとも協力し、若い世代や新たなメンバーを積極的に取り込んでいく」。品種や地域を問わず、新規加入は大歓迎という。ユーモアと真剣さを兼ね備えた新リーダーが業界に新風を巻き起こす。

（音成 泰文）

▽鈴木正通（すずき・まさみち）氏＝73年東大政経卒、77年日立印刷入社。81年鈴木鋼材入社、94年社長就任。07年東鋼板シヤー組合幹事、13年5月現職。趣味はバイク、楽器演奏、鉄道（乗り鉄）。休日には夫人とリーリングに出掛けることも。54年4月28日生まれ、東京都出身。

役員人事

東洋製缶グループホールディングス

（6月26日付）

▽取締役会長（代表取締役会長）三木啓史

▽代表取締役副社長（取締役副社長）山本晴男

■新任取締役候補

▽取締役副社長社長補佐（専務執行役員海外マーケティング・調達管掌）中井隆夫

▽取締役専務執行役員経営戦略統轄IR担当（〃経営戦略統轄IR担当）山縣富士雄

▽〃開発機能統轄（〃開発機能統轄）丸橋吉次

▽〃経営管理統轄最高財務責任者（〃経営管理統轄最高財務責任者）藤井厚雄

■退任予定取締役

▽退任・専務執行役員事業プロジェクト統轄（取締役専務執行役員事業プロジェクト統轄）有田恒夫

▽〃・執行役員（東洋製缶代表取締役社長）（取締役（東洋製缶代表取締役社長））中山伊知郎

▽〃（東洋鋼鈑代表取締役社長）（〃（東洋鋼鈑代表取締役社長））田中厚夫

▽〃（東缶興業代表取締役社長）（〃（東缶興業代表取締役社長））筒井栄二

▽〃（日本クロージャー代表取締役社長）（〃（日本クロージャー代表取締役社長））辻広康雄

▽〃（東洋ガラス代表取締役社長）（〃（東洋ガラス代表取締役社長））清水泰行

▽退任・常任顧問（〃社長付）黒田由雄

九州製油所保全業務

マレーシアで受注

調印式のもよう

山九は16日、マレーシアの現地法人・山九マレーシア（本社＝ペタリン・ジャヤ市、松村淳二社長）が、シェルグループのマレーシアの製油所から、日常保全業務を受注したと発表した。昨年のサウジアラビア・ジュベール製油所に続く、非日系企業からの大型案件の受注となる。契約期間は2013年4月から16年3月までの3年間（3年延長オプションあり）で、受注額は3年間で10億円規模となるようだ。

対象製油所はポートディクソン製油所。首都クアラルンプールから約70㌔㍍南下したところに位置し、石油精製能力は日産12万5000㌬。山九マレーシアは約140人の要員で、設備などの日常保全業務を行う。5月1日から作業を開始した。

入札にはマレーシア国内外から約20社が参加したが、山九のSDM（定修工事）などの施工能力をベースにした提案が品質、内容ともに高い評価を得て、受注につながった。山九グループは中期経営計画で海外売上高の増加を目指しており、日系企業と同時に非日系企業に対しても、積極的な取り組みを推進している。

組織と人事

日本冶金工業

（T＝チーム、TL＝チームリーダー）

（6月1日付）

【組織改正】

一〔営業本部内に〕「高機能材営業推進部」を設立し、「海外事業企画部」を廃止

一、大江山製造所製造部「技術研究チーム」と「品質管理チーム」を統合し、「品質・技術チーム」とし既存のチームを廃止

【人事異動】

▽経営企画部勤務（経理部会計TL）内田良治

▽〃（川崎製造所生産管理室生産管理TL）赤坂昌幸

▽経理部会計TL（経理部〔会計T〕）志田英人

▽川崎製造所技術開発室〔製造技術T〕勤務（川崎製造所製造部厚板工場長）加藤肇

▽〃製造部厚板工場長（〃薄板工場冷延第一係長）小椋浩史

▽〃生産管理室生産管理TL（購買部）丸山康治

▽大江山製造所製造部品質・技術T（大江山製造所製造部品質管理TL兼技術研究TL）安田智弘

きょう輸出入札

関西鉄源連合会

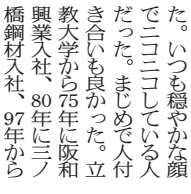
関西鉄源連合会（会長＝黒川友二・扶和メタル社長）はきょう17日、第36回鉄スクラップ共同輸出入札を実施する。契約数量は5000㌧（FAS・H2グレード中心）、船積み期間は6月1日から28日までを予定。前回（3月25日）の成約価格はFAS㌧当たり3万4000円で、落札商社はプラエ商会。

2013年3月期

（単位:100万円、配当は円、中段は前期、下段は次期予想）

売上高	営業利益	経常利益	純利益	配当
JFE建材				
53,475	2,541	2,502	1,524	—
55,633	2,678	2,647	1,329	—
—	—	—	—	—

穏やかな“ゾウさん”



角田善彦氏（三ノ橋鋼材社長）を悼む

大きな体で人柄も良く、皆から「ゾウさん」の愛称で呼ばれていた三ノ橋鋼材の角田善彦社長氏が急逝した。肝臓ガンだった。年初の新年会では元気だったが「腰が痛くて」と言っていたのが、今となっては兆候だったのだろう。1952年生まれの60歳。まだまだ早すぎる。若いだけに、病魔の進行が早かったのかもしれない。

敵のいない人だった。いつも穏やかな顔でニコニコしている人だった。まじめで人付き合いも良かった。立教大学から75年に阪和興業入社、80年に三ノ橋鋼材入社、97年から現在でも本所鉄交会館社長、東鉄連厚板部会長だった。

大学時代はスキー部。記者も以前、一緒にゲレンデを滑ったことがある。大柄な体格だが、滑る姿は華麗だった。ゴルフ、スキューバダイビングもこなすスポーツマン。そのゾウさんが死んでしまった。早すぎますよ。本当に淋しくなってしまいました。

（岡）